スポーツで育む挑戦する心と力

東京オリンピック・パラリンピック大会の追加種目として提案されている野球の面白さや魅力とともに、スポーツの意義について、東京ヤクルトスワローズの真中監督と女子プロ野球東北レイアの河本監督のお二人にお話を伺いました。

新しいチャレンジに充実した1年

区長　真中監督、東京ヤクルトスワローズ監督就任1年目でのリーグ優勝、おめでとうございます。

真中　ありがとうございます。昨シーズンまではチームが低迷していましたので、負けに慣れている意識を改革し、勝利を目指すことを大前提に進めました。その結果、リーグ優勝できたことには達成感を感じていますし、いい経験をさせていただきました。今年は、優勝チームとして、よりファンに喜んでもらえるチームを作っていきたいと思います。

区長　河本監督は宮城を拠点とする女子プロ野球の監督に就任されましたね。

河本　はい。東北レイアは20歳以下の若い選手を育成するチームです。男性と違い、学生時代に十分な指導を受けていない女子選手たちを育成するので、野球の基本を忠実に教えることを念頭において取り組みました。選手一人一人に合わせた指導に苦労しましたが、成長も早く、内容のいい試合ができたときにはみんなで喜びました。私自身も新鮮な気持ちで、初心に返ることのできたシーズンでした。

区長　お二人とも野球に夢を持ってもらいたい、打ち込んでもらいたいという気持ちで、選手の可能性を引き出すことに尽力された1年で、充実した時間を過ごされたと感じます。私も昨年は区長就任1年目で、区民のために区ができることを考え、区の職員と二緒にどのような業務を進めていくのかを確認することができました。その中で、足りないサービスや事業が認識できた1年でした。

選手の自主性を尊重チームの結束を固める

区長　真中監督はコーチ陣を含め、勝てるチーム作りをどのようにされたのでしょう。

真中　二軍監督のときは、若い選手が多いので、人間教育、育成にも重点を置きましたが、一軍は勝つのが使命です。2年連続最下位という状況から脱するために掲げたのが「つぼめ改革」というスローガンです。チームの意識と行動を変えようというもので、選手の自主性を重視しました。最近の若い選手はまじめで与えられたことはきちんとこなしますが、とっさの場合など、自分で判断する力が少し足りないんですね。練習も私生活においても、自分たちで考えて任せるようにしました。

区長　それは、監督ご自身で徹底したのですか。

真中　最初は僕から宣言しました。その後はコーチやスタッフを通して選手に伝えるなど、選手に伝わりやすい方法をその都度選んでいます。

区長　昨年の活躍は、コーチやスタッフを通した意思疎通が功を奏したのですね。お話を伺って、トップの意思の伝え方が重要であるとよく分かりました。私も区長として区政運営を担っていますが、トップにはなかなか意見を言いにくいのではと実感しています。ですので、できる限りオープンな姿勢を取って、広く区政運営に関するアイデアや意見を受け入れられるよう心掛けています。自主性を大事にするのは女子野球も同じですか。

河本　まだ野球が分からない選手が多いので、まずは全体で練習を教えます。ある程度実力が付いたら自主性に任せることもしましたが、個人差がありますので、個々に合った指導を心掛けています。

区長　神宮外苑では国立競技場や日本青年館の解体工事中ですが、人の流れが途切れなかったのはヤクルトが強く、ファンがたくさん球場に応援に来たからではと感じています。声援も大きかったでしょう。

真中　9月の優勝争いの中でのファンの声援はとても力になりました。選手も声援に感極まったときもありましたから。

【協力】東京ヤクルトスワローズ／東北レイア／明治神宮野球場

地域に野球の魅力を広げたい

区長　河本監督はどのような思いで女子野球に取り組んでいますか。

河本　私が高校生のときには女子の硬式野球部がある学校は全国で5校でしたが、現在は20校以上にまで増えています。野球をやりたいという女子が増えてきている今、私が教わってきたことを次の世代につなげたいという思いで指導に取り組んでいます。まだまだ勉強中の身ですが、私がこれまで感じてきた野球の面白さや奥深さを伝えてあげられれば、みんなも続けてくれるのではと思っています。

区長　さまざまな場面で女性の活躍が増えていますが、まさに女子プロ野球もその役目を担っていますね。

河本　体格やスピードで男子と比較されると、とてもかないません。女子プロ野球はどんなときも笑顔で全力プレーする姿勢など、男子とは違う魅力をアピールできれば、女子の活躍の場はあると思います。

真中　女子の野球ファンも増えています。観るだけではなく、プレーする女子を増やして、女子プロ野球が広まればすばらしいですね。

区長　私も区の管理職に占める女性の割合を増やしたり、外部委員に女性をできる限り選出するなど、女性の活躍に期待しています。男性中心の組織ですと、サービスや制度設計において、女性への配慮が不足しがちです。そもそも男性と女性の割合は半々なのですから、女性にももっと発言してもらいたいと考えています。

河本　女性ももっと発言する場を増やした方がいいというのは私も感じています。自分の考えを言葉にできない選手も多いのです。発言の機会を増やすことで、自分で考えて取り組む力が身に付くと思います。

スポーツを通して若い力を育んでいきたい

区長　河本監督は東北を中心に野球教室も開催され、12月には新宿区でも小・中学生を対象に野球を教えていましたね。

河本　少しでも女子プロ野球を知ってもらいたいと、活動しています。私は新宿で少年野球に入っていたので、その恩返しができればと思っています。特に女の子には、野球が楽しいという気持ちを忘れないでと伝えていきたいですね。

区長　真中監督が開催されている「真中満杯」はどのような主旨で始められたのですか。

真中　子どもたちのプレーできる機会が増えればという思いからです。私自身、指導者やボランティアの方への感謝の気持ちやチームワークなど、野球から多くのことを学ましたので、その環境づくりができればと思っています。

区長　活動を通じて子どもたちに伝えたいことはありますか。

真中　よく子どもに夢を持てといいますが、難しいですよね。夢はそのうちに見つかりますので、無理に探さなくてもいいよと。大人も温かく見守ってあげてほしいですね。一方、夢がある子は、できるだけ高い所に目標を持ってほしいと思います。

河本　私も夢がいっぱいありました。一つのことに夢中になるのもよいのですが、一番の夢が見つかるまで失敗を恐れずにいろいろなことにチャレンジしてほしいと伝えたいですね。

区長　2020年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催されますので、環境整備に努めていきます。特に子どもたちが参加しやすく、意欲を持てるような事業を展開し、世代を超えた人々がつながり、次の世代を担う人たちが活躍できる地域づくりを目指していきます。

地域に愛される球団を目指して

様々な活動でスポーツの楽しさを伝える東京ヤクルトスワローズ

東京ヤクルトスワローズは、日頃から「地域の皆さんに何かできないか、役に立てないか」を考えながら、地域に深く根差し、地域の方から愛される球団を目指して活動しています。また、子どもたちの夢と未来づくり、青少年の健全な育成のため、各地で積極的に野球教室や交流会などを開催しています。

野球教室では、元選手が新宿区をはじめ、近隣の区にも出向き、打撃や守備練習などを指導。元選手への質問タイムなども設け、体を動かすことやスポーツの楽しさを伝えています。さらに、他のプロスポーツ団体と協力したスポーツ交流、明治神宮野球場での職場体験などを通じて、技術はもちろん、人格を形成する上で大切なあいさつや礼儀も指導しています。

東北を中心に育成活動

野球教室や講演活動で女子プロ野球の魅力を発信

東北レイアは、宮城県に拠点をおき、東北を中心に育成チームとして活動しています。リーグ創設6年を経過した女子プロ野球を多くの方に知ってもらい、将来に渡って発展させていくため、各地で野球教室を開催しています。

野球教室では、選手が打撃や守備などチーム・個人に応じて丁寧な指導を実施。野球の楽しさが実感できると好評です。また、講演会も行い、女子プロ野球の魅力を発信しています。

12月19日には、区内在住の小・中学生を対象に、河本監督と所属選手による野球教室を開催。打撃や守備練習、食育ゲームを通じて子どもたちと触れ合い、野球の楽しさを伝えていました。